

## 6. キャリアカウンセリングの実施について

本学に在学する学部生・大学院生を対象としたキャリアカウンセリングを、平成22年の10月から3月にかけて、試行的に行った。

キャリアカウンセリングは、他の大学では進路や将来に不安を抱えていたり、自己理解を深めたいと思っている学生や、よりはっきりと目的意識を持っている場合には、就職活動のための具体的なアドバイスを得たり、業種・職種への適性を相談し、助言を得る場となっている。

本学は教員養成系の大学なので、多くの学生は自分の進路を教職と定めている。そして本学では教職講座、個別相談、論文指導などによる就職支援のための体制はすでに整えられている。したがって、このキャリアカウンセリングは、直接的な就職指導という意図ではなく、将来にまだ迷いがあったり、自分について理解する手立てはないかと漠然と悩んでいたり、あるいはキャリアカウンセリングそのものに興味を持っている学生を対象に行うものである。

キャリアカウンセラーについては、兵庫県立長田商業高等学校教諭、村重勝也先生にお願いした。村重教諭は、民間企業から高校の国語科教員になられ、本学大学院ではキャリアカウンセリングについての研究で修士号を取得されている。

キャリアカウンセリングは、毎週水曜日の午前に実施し、総合研究棟 2Fにキャリアカウンセリングルームを設けた。

今回のカウンセリングは、「個人のキャリア形成に関する不安や悩みの解決をサポートする相談」として学生に案内を行い、個別のキャリアカウンセリングの他にも、平成23年2月16日（水）には、グループ形式での「教員（志望者）向けキャリアアンカー」の作成を行った。村重教諭による「教員（志望者）向けキャリアアンカー」作成の報告については、次ページ以降に掲載する。

## 「教員版 キャリアアンカー アセスメント」の作成と実施

兵庫県立長田商業高等学校 教諭 村重勝也

平成 22 年 10 月より兵庫教育大学総合教職キャリアセンター設置準備室で、毎週水曜日の午前中にキャリアカウンセリングを行ってきた。講義と重なる時間のためか、この間の相談件数は 7 件に過ぎなかったが、相談の中には、目前に迫ってきた教職というキャリア選択に対して根本から迷いを感じている若い学生や教職経験がベテランの域に達しながら今後の自分のキャリアに対して、家庭、家族の将来像とともに不安を抱いている現職教員のケースなどがあった。

就職活動の波に流されていたり、現場の仕事に忙殺されていたりする時には感じる余裕もなかった自己のキャリアに対する不安や戸惑いが、ふとした瞬間に表面化することはどのような職業に就いていても起こるが、専門職として比較的安定的なキャリアと考えられてきた教員という仕事の場合には、一般企業人などとはやや異質な側面があるようにも感じている。

自己のキャリアへの戸惑いを感じたり、昇進・異動・転職に直面したときに、自己のキャリアを自己管理し、主体的なキャリア選択を行うために自己の能力・動機・価値観に関する自己イメージを明らかにするのが、エドガー H. シャイン博士のアイデアである「キャリアアンカー」である。そのキャリアアンカーを自己診断するためのセルフアセスメントツール<sup>1</sup>も出版されており、気軽に自己のキャリアアンカーについて考えることができる。しかしこのツールは基本的には一般企業人を想定し、しかもある程度のキャリア経験を積んだ人々を対象にした質問項目から成り立っているように思われる。

そこで、対象を教職に絞り込み、しかもこれから教職に就こうとする若い人たちにも自己のキャリアアンカーについて理解することが可能なセルフアセスメントはできないかと考え、教員版キャリアアンカーのアセスメントツールを試作した。

キャリアアンカーそのものについては基本的にはシャイン博士の考える 8 つのカテゴリーに倣い、自己の価値観をそれぞれ直接比較することでその優先順位を点数化しキャリアアンカーの傾向を明らかにしようと考えた。シャイン博士が明らかにした 8 つのカテゴリーとは、1. 専門・職能別能力 2. 経営管理能力 3. 自律・独立 4. 保障・安定 5. 起業家的創造性 6. 奉仕・社会貢献 7. 純粹挑戦 8. 生活様式 である。このうち、教員の一般的傾向から「起業家的創造性」は、「純粹挑戦」に含めて考えることが可能かつ妥当ではないかと考え、代わりに国民性を考慮して「人間関係・協働」のカテゴリーをおいている。

質問紙とアセスメント用の集計用紙を作成し、2 月 16 日に実際に 2 名の学部生、4 名の大学院生（うち 3 名の現職教員を含む）に被験者となってもらい実施した。

全体の流れとしては、まず、キャリアアンカーについての簡単な解説とアセスメント方法の説明を行い、約 30 分間でセルフアセスメントを実施する。その後、二人ずつのペアとなって検査結果をシェアしながら、感想や意見を話し合ってもらい、

1 『キャリア・アンカーI セルフ・アセスメント』Edgar H. Schein 著 金井壽宏・高橋潔訳 2009 白桃書房

最後に6人全員で10分間程度のフリートークを行った。

質問紙には、8つのカテゴリーを明記せずにそれぞれの価値観を代表する若手教員のつぶやきが文章化されている。被験者はそれぞれを二つずつ読みくらべ、どちらの文章に共感度が高かったかを0、1、2の3段階で採点する。それを28通りのすべての組み合わせにおいて行い、さらに、全体の中で特に共感の度合いで大きな差がついた組み合わせを3つ選び加点する。

最後にカテゴリーごとの点数を算出し、グラフ化してもらうことで、もっとも数値の高いカテゴリーがその人のキャリアアンカーということになるわけである。

今回は6名中教職経験を持たない20代の方が3名おり、はっきりとしたキャリアアンカーが見いだせないケースも予想したが、結果的にはほとんど全員に明確なキャリアアンカーが確認できた。結果の妥当性を事後のアンケートで自己評価（5段階）してもらったものが表1である。また、聞き取り調査でも、全員からおおむね納得できるという回答が得られた。

結果の妥当性	男	女	合計
ある	1	2	3
2	1	1	2
3		1	1
4			0
ない	5		0

表1

初めて気づく自分の価値観と元々わかっていた価値観とがあり、結果をシェアして話し合うのが楽しかった。
自分を振り返る良い機会になった。教師の研修の場で活用するとその時の自分の思いがわかり仕事の見直しができると思う。
さらに個人的な検査結果を詳しく知りたい。
学部生と結果をシェアするのはとてもいい勉強になった。
自分の優先したいことがはっきりわかった。仕事ばかりになるのは嫌だが、自分のやるべきことをしっかりやって人生を豊かにしたい。
どの考え方に対しても優劣をつけるのは難しかった。最後に数値として差が出てくる形式はわかりやすい。
記入用シートへの記入の仕方が少し混乱した。

表2 実施後の感想

実施後の主な感想を表2に示したが、特に反応が大きかったのは、ペアになって結果をシェアしながら話し合う時間が非常に有意義だったという意見である。当初、結果をシェアすることには多少の抵抗感もあるのではないかと予想したが、アンケートによれば全く問題はなかった。むしろ、教職キャリアに対して、人によってさまざまな価値観があることを改めて認識することができて、自分自身を振り返る良い機会となったようである。特に異世代との意見交換は新鮮な発見につながったのではないかと。また、教員生活の節目となる5年研修、10年研修などで実施すれば、仕事への取り組みを再活性化することにつながるだろうということで、さっそく校内研修で実施してもよいかという質問もあった。

以上のように「教員版キャリアアンカー セルフアセスメント」に対しては全般として好意的に受け取られ、その有用性を評価する意見も多かった。

今後の課題として、まずひとつは、カテゴリーを代表するつぶやきの文章が、本当にそのカテゴリーの価値観を妥当に表現しているかを検証し、より文章をブラッシュアップしていくことが挙げられる。また、結果をシートに記入する際にわかりにくさがあって少し混乱したので、記入シートの工夫と適切な記入方法の指示についての改善が必要である。さらに、結果をシェアする方法や全体での振り返りの内容などについても、より自己理解が深まるような進行方法を検討していきたい。

以上のような点で改善を加えていけば、このアセスメントが教員に対するキャリアアカウンセリングのアセスメントツールとしても十分活用できるものになるのではないかと考える。

---

#### 参考資料

「キャリア・アンカー 自分の本当の価値を発見しよう」 Edgar H.Schein 著 金井壽宏訳 2003 白桃書房

「自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック」 小野田博之著 2005 日本能率協会マネジメントセンター

●次に、教師になったばかりの若者8人のつぶやきが書かれています。共感できる場所はありますか。あるとすればどんなところでしょうか。もちろん自分とは違うなど感じるつぶやきもあるのではないのでしょうか。あなたがもしこれから教師を目指すならば、どんな教師になりたいか、すでに教師の職に就いている人なら、理想の教師像とはどういうものか、自分の考えや気持ちと比べながら読んでみてください。

#### 1. 齊藤美紀さん

わたしは自分の得意分野を生かすために教師という専門職を目指しました。教師というのはその道のスキルや知識が正当に評価される職業ですし、さらに勉強を重ねることでより専門性を高めることができますからね。理想の先生というのはやはり、その科目のことならどんなことでも知っていて、しかも話術や授業技術にたけていて、話を聞いているだけで、勉強ができる気にさせてくれるような”わかる授業”ができる先生だと思っています。生徒たちからも、先生たちからも、その科目のことならあの先生に聞けばいいと認められるような教師になりたいと思います。

#### 2. 桑原良和さん

教師になるからにはいい教育、理想の学校づくりを目標にしたいと思います。そのためには、学校の中でも、いろいろな仕事を経験し、学校全体の組織についてしっかり把握しなければならないと思っています。良い学校づくりのためにいろいろな構想を考え、早く管理職にも認められたいですね。もちろん校長になって威張りたいというわけではありません。ただ、理想を実現するには、やはり組織のリーダーになってみんなを動かしていくことが必要だと思うので、ある程度高いポジションにつけなければきっと自分は満足できないと思います。

#### 3. 高部 剛さん

教師というのは、普通の会社員とは違って自分の考えで仕事を進めていける職業だと思います。たとえば、授業は人それぞれの進め方があるし、クラスを仕切るのも担任です。私は自分のやり方で、方法や段取り、時間配分など決めたいと思います。教師にはそれが許されるし、また必要なことではないのでしょうか。ですから教師に民間企業のようにノルマを課すのはおかしいと思います。あまり校則が厳しかったり、同じ考え方を強制されるような学校にも勤めたくないです。もちろん、何でも自分の思い通りにできるとは思いませんが、慣例に縛られて何もかも決められたとおりにしかできないような仕事や職場だったら私は務まらないかもしれません。

#### 4. 吉田真衣さん

教師という仕事は、きちんとしたスキルを習得して、手慣れた授業をすることが何より求められるし、それが生徒のためにもなるはずですよ。始めと終わりがきちんとしてパターン化されていると授業も理解しやすいですね。時々突飛なことをして目立ちたがる先生がいますが、私はあまり評価しません。ですから希望を言えば、できれば同じ学校に長く勤め、安定した環境で仕事をしたいです。教師という仕事の魅力は、ある程度の経済的な保証のうえで好きな仕事を一生続けていけるという点はあると思います。民間企業のように景気に左右されるようなこともありませんし、結婚しても子どもができてもしっかりと仕事が続けられるのもいいですね。

#### 5. 渡辺健介さん

わたしは、同じ学校に勤める教師同士で力を合わせ、生徒たちを指導して行くことがとても大切だと思っています。良い学校づくりのためには、何よりも教員同士のチームワークが大切で、特に同じ学年や同じ部に所属している仲間とは、日頃から積極的にコミュニケーションをとって、円滑な人間関係を保ちたいですね。どんな仕事も一人では成り立たないと思いますが、特に教師の仕事は一人一人の考え方がバラバラだったら、生徒たちも安心して学校に通えないと思います。教師集団にまとまりがあることは、良い学校の条件ではないのでしょうか。部活動なんかでもぜひチームワークの大切さを伝えていきたいですね。

#### 6. 堀田由美さん

教師の仕事の一番のやりがいは、生徒たちの人生に関わり、たとえ少しでもその役に立つことができるという点です。いい先生に出会うことは、もしかするとその人の一生に影響を与えることになるかもしれないのですから、精一杯生徒のために力を尽くすことが教師の役目だと思います。もちろん簡単なことではないとわかってはいますが、自分の生活を優先していたら教師の仕事は勤まらないと思います。教師のような人づくりの仕事は、大げさかもしれないけれど、社会をよりよくしていくことにつながる仕事だと私は思います。生徒たちにも、積極的に社会に働きかける人、ボランティア精神豊かな人になってもらいたいと考えています。

#### 7. 溝口 武さん

教師という職場は、ある意味毎日が戦いの連続だと思います。学校ではたくさんの生徒たちの出会いがあり、困難な課題も次々と生まれます。でもだからこそ、教師の仕事のやりがいもあるという気がします。授業にしても、他の人にはできない新しい方法を工夫して生徒を引きつけていくことが大切だと思います。いつも同じやり方では生徒も飽きるし、第一自分自身もおもしろくないじゃないですか。部活動なんかでも、たとえば弱小チームを引っ張って行って、大会で優勝するとか大きな目標を達成できれば、何より生徒たちの自信にもつながりますからね。やはり仕事にはワクワク感をもって、何にでもチャレンジしていくことが大事ではないでしょうか。

#### 8. 田中絵里さん

私にとってももちろん教師の仕事も大切なのですが、それと同じだけ、趣味や読書といった自分のための時間も大切にしたいし、家族を持てば家族との時間も大切にしたいと思っています。仕事とプライベートの、その二つのバランスをうまくとらなければいい仕事はできないと思うからです。もちろん、時には仕事の面で無理も必要になるでしょうし、自分の時間を家族サービスに割くことも必要になるでしょうが、そのあたりは柔軟に対応していく自信があります。ときどき教師の仕事はプライベートを犠牲にするべきだという考えの人もありますが、それにはあまり共感できません。まず教師自身が豊かな時間を持ち人生にゆとりを持たなければ、きっと生徒たちに豊かな心を伝えていくことはできないのではないのでしょうか。

教員版 キャリアアンカー セルフアセスメント

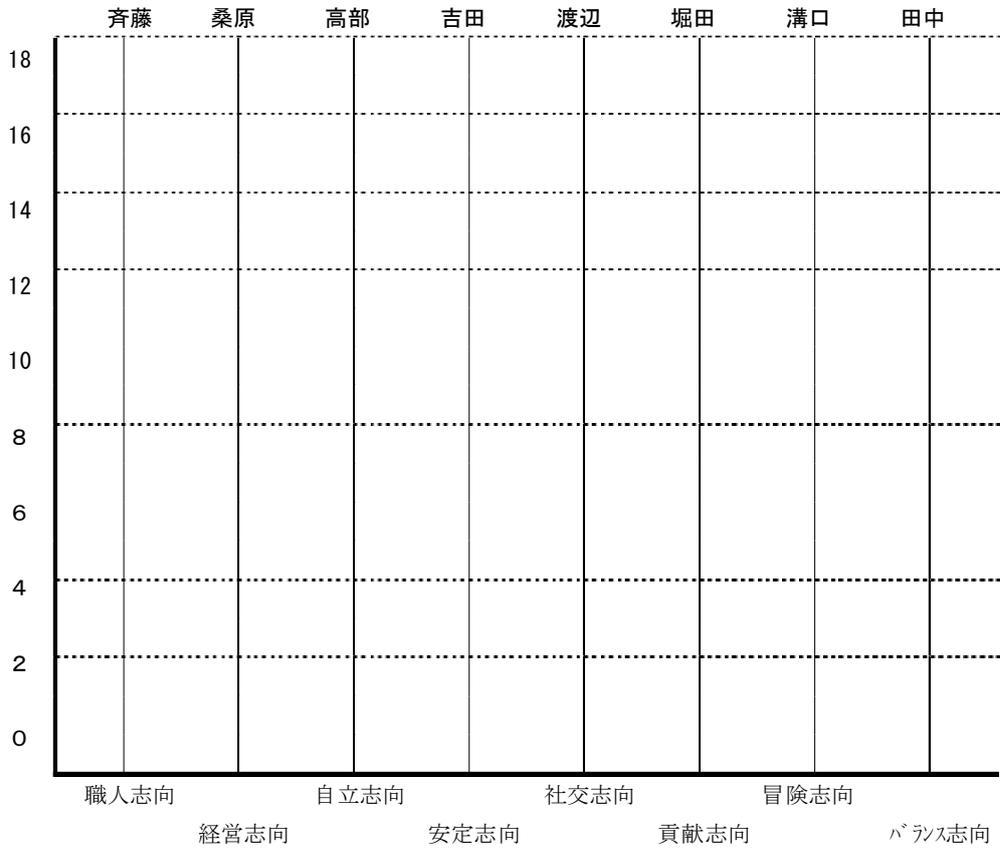
●記入用シート A

比べる側	齊藤美紀	桑原良和	高部剛	吉田真衣	渡辺健介	堀田由美	溝口武	田中絵里
比べられる側								
齊藤 美紀 さん								
桑原 良和 さん								
高部 剛 さん								
吉田 真衣 さん								
渡辺 健介 さん								
堀田 由美 さん								
溝口 武 さん								
田中 絵里 さん								
追加点								
合計点								
順位								

●やり方

- ① それぞれ二者を比べて、どちらの考え方に共感できるか考えてください。縦の方が横を上まわる場合には2、下まわる場合には0、どちらとも言いかねる場合は1を該当のマスに記入します。
- ② このとき、上まわり方が明らかではっきりしていると思ったものには、2+と記入します。
- ③ このようにして上から下の順に、すべてのマスを比較して記入します。
- ④ 最後の田中絵里さんの列をすべて記入し終わったら、すべてのマスの中から、あらためて特に大きく上まわっていると思うものを3つだけ選びそのマスを丸で囲みます。基本的には「2+」の中から探せばよいのですが、「2+」が2カ所以下なら「2」から探してください。
- ⑤ 丸で囲んだもの一つにつき、1点の追加点を下の追加点の欄に記入します。
- ⑥ 縦にすべての合計点を記入し、多い順に順位も記入します。
- ⑦ 次のページ（ウラ）の折れ線グラフにも転記しましょう。

●記入シート B



●自分の折れ線グラフの結果を見て、思ったこと感じたことを率直に記してください。

●ペアの方のグラフを見て、思ったこと感じたことを率直に記してください。

●次に、教師になったばかりの若者 8 人のつづやきが書かれています。共感できるところはありますか。あるとすればどんなところでしょうか。また自分とは違うなと感じるつづやきもあるのではないのでしょうか。あなたがもし教師を目指すならば、どのように考えるのか、自分の考えや気持ちと比べながら読んでみてください。

**1. 斉藤美紀さん 専門性・技能(才能)** 自分の才能や技術の向上に喜びを見いだす。職人志向  
わたしは自分の得意分野を生かすために教師という専門職を目指しました。教師というのはその道のスキルや知識が正当に評価されると思いますし、さらに勉強を重ねることでより専門性を高めることができますからね。理想の先生というのはやはり、その科目のことならどんなことでも知っていて、しかも話術や授業技術にたけていて、話を聞いているだけで、成績が上がるような気にさせてくれるようなよくわかる授業のできる先生ですね。生徒たちからも、先生たちからも、その科目のことならあの先生に聞けばいいと認められるような教師になりたいと思っています。

**2. 桑原良和さん 地位・立場(出世)** マネジメントを志向しリーダーをめざす。経営者志向  
わたしは、いずれ校長になって自分で理想の学校づくりを目指すことが夢です。そのためには、学校の中でも、いろいろな仕事を経験し、学校全体の組織についてしっかり把握しなければなりませんと思っています。また、良い学校づくりのためにいろいろな構想を考え、早く管理職にも認められたいですね。別に校長になって威張りたいというわけではありませんが、おもしろい仕事をするには、やはり組織のリーダーになってみんなを動かしていくことが必要だとおもうので、ある程度高いポジションにいなければきっと自分は満足できないと思います。

**3. 高部 剛さん 自律・独立(自由)** マイペースで自由を愛するフリーランサー。一匹狼志向  
教師というのは、普通の会社員と違い自分の考えで仕事ができるという点がなにより魅力だと思います。たとえば、授業は人それぞれの進め方があるし、クラスを仕切るのも担任なのだから、私は自分のやり方で、方法や段取り、時間配分など決めたいと思います。教師にはそれが許されるし、また必要だと思います。民間企業のように、利益を上げるためのノルマとかないのもうれしいですね。だから、あまり校則が厳しかったり、同じ考え方を強制されるような学校には勤めたくないです。もちろん、何でも自分の思い通りにできるとは思っていませんが、慣例に縛られて何もかも決められたとおりにしかできないような仕事や職場だったら私は務まらないかもしれません。

**4. 吉田真衣さん 保障・安定(収入)** 経済的な安定を志向し、終身雇用を望む。公務員志向  
教師という仕事は、きちんとしたスキルを習得して、手慣れた授業をすることが何より求められるし、生徒のためにもなると思います。始めと終わりがきちんとしてパターン化されていると授業も理解しやすいですよ。時々突飛なことをやって目立ちたがる先生がいますが、私はあまり評価できません。できれば同じ学校に長く勤めて、安定した環境で仕事していきたいです。それから教師の魅力は、決して大金持ちにはなれないけれど、経済的な保証を得られて好きな仕事を一生続けていけるという点です。民間企業のように景気に左右されるようなこともありませんし。教師が安定した生活を保障されていなければ、生徒を適切に指導していくことだって難しいはずですから。

**5. 渡辺健介さん 協働・交際(人間関係)** 仲間と力を合わせて目標達成をめざす。社交家志向  
わたしは、同じ学校に勤める教師同士で力を合わせ、生徒たちを指導して行くことがとても大切だと思います。自分の勤める学校を良い学校にしていくためには、何よりも教員同士のチームワークが大切だし、特に同じ学年や同じ部に所属している仲間とは、日頃から積極的にコミュニケーションをとって、いい人間関係を保ちたいですね。どんな仕事も一人では成り立ちませんが、特に教師の仕事は一人一人の教師の考え方がバラバラだったら、生徒たちも安心して学校に通えないと思います。仲間との和を大切にしてもらいたいのので、部活動でもチームワークの大切さを教えていきたいですね。

**6. 堀田由美さん 貢献・奉仕(役立つ)** 社会貢献や人の役に立つことが生きがい。奉仕者志向  
教師の仕事の一番のやりがいは、やはり生徒たちの人生に関わって行く中で、少しでも役に立つことができるという点です。いい先生に出会うことは、もしかするとその人の一生に影響を与えることになるかもしれないのですから、精一杯生徒のために力を尽くすことが教師の役目だと思います。もちろん簡単なことではないかもしれませんが、自分の生活を優先していたら教師の仕事は勤まらないと思います。それに私は人づくりの仕事は、結果としては社会をよりよくしていくことにつながると信じています。生徒にも、ぜひボランティア精神豊かな人になってもらいたいと考えています。

**7. 溝口 武さん 挑戦・冒険(興奮)** 困難へのチャレンジこそが生きがい。冒険者志向  
教師という職場は、ある意味毎日が戦いの連続だと思います。学校にはたくさんの生徒たちの出会いがあり、困難な課題も次々と生まれます。でもだからこそ、教師の仕事のやりがいもあるという気がします。授業にしても、他の人にはできない新しい方法を工夫して生徒を引きつけていくことが大事なんじゃないかと思えます。いつも同じやり方では生徒も飽きるし、第一自分自身がおもしろくないじゃないですか。部活動などでも、たとえば弱小チームを引っ張って行って、大会で優勝するとか大きな目標を達成できれば、何より生徒たちの自信にもつながりますからね。やはり仕事にはワクワク感ということがとても大切なんだと思います。

**8. 田中絵里さん ゆとり・生活(時間)** ワークライフバランスを重視し、生活を楽しむ。趣味人志向  
私にとってはもちろん教師の仕事も大切なのですが、それと同じだけ、趣味や読書といった自分のための時間も大切にしたいし、家族を持てば家族との時間も大切にしたいと思っています。教師としての時間と自分や家族という時間の、その二つのバランスをうまくとらなければいい仕事もできないと思っています。もちろん時には、仕事の面で無理も必要でしょうし、自分の時間を家族サービスに割くこともあるのはわかりますが、そのあたりは柔軟に対応していく自信があります。教師の仕事はプライベートを犠牲にするべきだという意見もありますが、それにはあまり納得できません。やはり教師自身が豊かな時間を持つてなければ、生徒たちに豊かな心を教えていくことはできないと思うからです。

